

地区研修・協議会 部門別協議会 概要報告

会長部門

次年度地区代表幹事 **川上 富清**
(大阪帝塚山RC)

地区研修協議会 会長部門 は国際会議場12階にある特別会議場で、新井次年度副代表幹事の司会進行で開催されました。

各クラブの会長エレクトとガバナー補佐エレクト、ガバナー補佐ノミニーが出席し、泉ガバナーエレクトの開会挨拶の後、川上次年度地区代表幹事より地区からのお知らせ、小島次年度地区財務委員長より次年度地区予算の説明がありました。

ひきつづき、泉ガバナーエレクトによる地区方針の説明の後、会長エレクトとの意見交換が行われました。泉ガバナーエレクト自らマイクを持って進行する形式で、多くの方から活発な意見が述べられ、緊張感のある協議会でした。改正された手続要覧をもとに、会員の資格や職業分類についての質問、出席率の計算方法の質問、例会への出席義務がゆるくなっているのではとの疑問、会員数の少ないクラブでは国際奉仕活動について地区の支援が望ましい等多くの意見が述べられ、あっという間に所定の時間が終了してしまった感がありました。

続いて、次年度の予算が拍手で可決され、立野ガバナーノミニーに講評をいただき、会長部門の研修協議会を無事終了いたしました。

幹事・SAA部門

地区研修委員 **岡田 耕治**
(東大阪東RC)

現地区代表幹事山田氏の司会の下、まず始めに新谷PGの挨拶、続いて第2750地区坂本PGより「幹事・SAAの心構え」についてレクチャーを受ける。その後、本年度より改正された定款・細則の中で、クラブ関連の改正点について地区研修委員会の岡田より説明がある。そしてIM各組がテーブル毎に幹事部門は「クラブ運営の充実」、SAA部門は「SAAの役割」について30分のバズセッションを行い、テーブルリーダーが発表を行う。

幹事部門：充実の為には、会員増強と例会の出席率の向上に尽きる。ただ会員減少の中、活動を集約し重点化する必要有り。また、世代間の距離を埋めるために座談会を行っているクラブも有る。

SAA部門：例会場の雰囲気新鮮にする為に、毎週席の配置に工夫が必要。しかし反対に、楽し過ぎると雰囲気が乱れる傾向にある、と指摘。また、SAAが欠席者に連絡を入れているクラブもある。

最後に松本GNDの講評をもって閉会となる。

クラブ奉仕部門

クラブ奉仕・拡大増強委員長 **福田忠博**
(大阪中之島RC)

広報委員長 **上場俊哉**
(高槻東RC)

次年度の広報委員会について

- 1) ロータリー内部への情報発信を充実させクラブ、地区の活性化を支援する
 - ① 各クラブのホームページ及び会報の充実を支援する
 - ② 「ロータリーの友」と連携して各クラブの奉仕活動の投稿を推進する
 - ③ 各クラブの、地域やマスメディアへの広報活動を支援する
- 2) ロータリー外部への広報活動を企画し推進する
 - ① 地区ホームページのよりいっそうの充実を図る
 - ② 国際性豊かな2660地区をアピールする機会を設ける
 - ③ ロータリーフェスティバルの成功に向けて企画運営をサポートする
 - ④ ラジオ大阪での番組放送を継続充実する
 - ⑤ ロータリーデーの成功に向けた情報発信を行う

次年度の会員増強について

R I 理事会の報告によれば、世界ロータリー会員数が初めて120万を割り込む現状にあり、会員の減少の目立つ地区として、ロータリー先進国といわれているアメリカ、ヨーロッパ、日本、オーストラリアが挙げられ、会員減少の原因として世界的に経済情勢が悪化していることに加えて、ロータリーがマンネリ化している。ロータリーは時代の要請に応じて変化することが求められているので、このマンネリ化を打破する必要があるとR I 理事会は指摘しています。

例えば、会費の値下げを断行して、若い人や主婦、企業退職者等を勧誘など思い切った勧誘方法を挙げています。

一方、2660地区としての増強策は会員のうち若い人を対象とした集会や全会員を対象とした地区主権のイベントを開催して、そこに友人、知人の参加を促し、会員増強とロータリーの認知度の向上を目指したいと思っています。

職業奉仕部門

職業奉仕委員長 **北川忠嗣**
(東大阪東RC)

①会資料確認出席者紹介後、(月)松本地区職業奉仕部門顧問PGよりクラブ職業奉仕委員長の役割についてわかりやすく話して頂き、②地区職業奉仕委員会の方針発表があり、その中でロータリアンは職業を通じ色々な奉仕活動を行い地域に貢献しなければならない。当委員会は次年度もその地域社会の貢献の一つとしてロータリアンの職業を生かして学校教育への貢献ができる様、出前授業職場体験学習を進める話、③本日の活動発表についての進行の説明があり、

(イ) 卓話フォーラム部門：大阪南RC；外部卓話も良いが、会員が自分の職業について語るミニ卓話をされているのが素晴らしいと感じました。

(ロ) 出前授業：大東中央RC、吹田RC；積極的に出前授業の実践により職業奉仕の理念の推進に努めたいとの事、また今年初めて出前授業を取り組まれ、素晴らしい成果を上げられ、生徒からのアンケート感想文をもとに卓話を行われた。

(ハ) 職場体験：大阪RC、吹田RC；クラブ会員事務所である病院、百貨店、放送関係の企業が体験学習を受け入れ、中学生が参加、生徒の方には好評だった。

(ニ) 職場見学：大阪北梅田RC；職場見学はクラブ奉仕と合同で会員企業の見学、懇親会を兼ね、製品開発にあたっての秘話を含む卓話を聞くことができ、クラブ活性化につながったのではと思います。

以上各クラブから発表その後、会場から発表者への質問を受ける。その後、鈴木地区研修委員より所感を頂き、閉会しました。

社会奉仕部門

社会奉仕委員長 **脇 隆俊**
(大阪御堂筋本町RC)

SAAの開会、資料確認から社会奉仕部門協議会が開催され、リーダーである高島直前ガバナーから開会あいさつ、サブリーダー次年度社会奉仕委員会協委員長から次年度地区社会奉仕委員会の運営方針説明があった。地区委員会の基本的な役割、そして次年度は特に献血活動における情報提供に力を入れる旨の報告があり、社会奉仕活動の例として大阪難波RCの献血活動における成果の報告があった。

そのあとIM毎に各クラブにおける次年度の社会奉仕活動方針や予定について活発なバズセッションが行われた。IM毎に発表があり、毎年継続している活動や、次年度に新たに始める活動などそれぞれ特色のある活動について報告があった。そのなかでも献血活動は多くのクラブが取り組んでいる活動であることがわかった。

最後に高島直前ガバナーの講評をもって閉会した。

青少年奉仕部門

地区研修委員 **岩津陽介**
(大阪御堂筋本町RC)

司会者である岩津陽介地区研修委員から出席リーダー・サブリーダーの紹介があり、最初に当部門リーダーである岡部泰鑑パストガバナーの開会挨拶と危機管理についての説明があった。危機管理委員会において重要性が討議され、マニュアルが作成される予定であることが報告された。

次に青少年活動委員会、青少年交換委員会、ローターアクト委員会、インターアクト委員会の各次年度委員長から活動実績・次年度方針が発表され、質疑が行われた。

井上善博青少年委員長からは少年少女ニコニコキャンプ、春のライラ、秋のライラを中心に活動実績と次年度方針が発表され、各行事はガバナー主催であり、各クラブからの強力な協力が依頼された。

山本喬一青少年交換委員長からは交換留学生が今年度は5名であったが、次年度は10名を交換する予定であり、受け入れの各クラブにおいてホームステイファミリーは大変ですが、絶大なる協力を要請された。

山本和良ローターアクト委員長からはローターアクトの活動実績と次年度方針が発表され、青少年奉仕部門各委員会からの協力の下に、サポートシステムの強化を図り、会員を増強し、将来のロータリアン候補に育てる方針が示された。

最後に、鮫島武信インターアクト委員長からも活動実績と次年度方針が発表され、次年度は新しいインターアクトクラブの誕生が予定されているとの嬉しい報告がなされた。

各委員長からの発表はパワーポイントによる内容において質、量とも十分であり、夫々の発表時間が与えられた時間一杯であったので質疑の時間を少ししか取れなかったのが残念であった。

各委員会の発表の後、岩津陽介研修委員から5月24日(土)開催の青少年奉仕部門ワークショップ案内と岡部泰鑑パストガバナーの閉会挨拶で終了した。

国際奉仕部門

国際奉仕委員長 **安井一男**
(新大阪RC)

第1部の講演

演題：「ロータリークラブが目指す国際奉仕活動」

講師 委員長 安井一男

- ①人道的国際奉仕プロジェクトの6重点分野について
- ②事例発表：「新大阪RC」のトルコでの国際奉仕プロジェクトの紹介
- ③地区国際奉仕委員会の役割について

第2部の講演

演題：「補助金の仕組みや種類、その申請や利用の方法について」

講師 副委員長 岩上高幸

- ①2013-2014年に認可のされた国際奉仕プロジェクトの紹介
- ②地区補助金(DG)、グローバル補助金(GG)、地区財団活動資金(DDF)の仕組み、利用の方法、規定、注意点について
- ③DDFの2014-2015の利用規定の変更点について
代表提唱者はUS\$20000まで、共同提唱者はUS\$5000までに制限
2013-14にDDFを申請していないクラブのみ利用可能

ロータリー財団部門

ロータリー財団委員長 **溝畑正信**
(東大阪東RC)

クラブ財団委員長を対象に開催されました。

司会：川本典美 次年度補助金小委員会 職業研修チーム 担当グループリーダー

1. 大谷 透 財団部門顧問・PDGの挨拶：次年度財団管理委員長はジョン・ケニー氏で、RI会長時のテーマはThe Future Of Rotary Is In Your Handsであった。ロータリー財団の牽引車は皆さん、エンジンは寄付である。皆さんはリーダーシップを発揮して、Light Up Rotary Foundationで、財団の有意義さを会員に示し、喜んで寄付して頂けるように、財団を輝かして頂きたいと挨拶。
2. 地区ロータリー財団委員長 溝畑正信：「2014-15年度のためのロータリー財団」と題して、2014-15年度財団目標に沿って財団全般について。
3. 次年度資金推進小委員長 松下和彦：「資金推進活動について」
4. 次年度財団資金管理小委員長 片岡利雄：「資金管理について」
5. 次年度補助金小委員長 四宮孝郎：「財団補助金について」
(グローバル補助金・地区補助金、奨学金、VTTを含め)
6. 次年度ポリオプラス小委員長 木村芳樹：「End Polio Now」に関して報告しました。

質疑では、財団の発行している「クラブ・ロータリー財団委員会の手引き」のなかで、“財団に関して会員の教育を行う。”との箇所は上からの目線での表現ではないかとの意見がありました。

なお、5つのプレゼンテーション資料を下記当地区ウェブサイトにもアップロードしています。是非クラブでのプレゼンテーション等にお役立てください。

http://club.ri2660.gr.jp/active/zaidan_hojyo.html

米山奨学部門

米山奨学委員長 **近藤奈穂子**
(大阪ネクストRC)

対象：クラブ米山奨学委員長

司会進行：福田治夫副委員長(会議資料、出席者紹介)

1) 開会挨拶：近藤雅臣米山奨学会副理事／元R I 理事／PGより米山奨学会の意義について説明があり、
また、ご自身の経験をもとに奉仕をすることの尊さなどのお話がありました。

2) 米山奨学委員長 近藤奈穂子より2014-15年度の方針について説明。

昨年度に引き続き、一人あたり30,000円の寄付金目標とさせていただくこと、そして一人でも多くのロータリアンに米山奨学事業のファンになっていただけるよう、①推薦大学制度の充実、②奨学生の質的向上、③学友会の活性化に注力すること、をお話いたしました。

3) DVD放映「ひろがれ！人づくりの輪」

4) 「米山豆辞典」：島井宏子委員より米山豆辞典から抜粋した内容をパワーポイントにて説明。

5) 米山学友のスピーチ

①2012-14年度奨学生より アブデルアール、アハメド・マハムード・ムハモンド

②学友会より 李 一

③学友会より 林 小微

最後に岩田宙造次年度米山部門顧問PDGより講評をもって閉会いたしました。

クラブ研修リーダー部門

地区研修委員長 **井上暎夫**
(千里RC)

次年度の各クラブにおける研修活動をより効果的に進めるためのノウハウ、知見の共有化と、研修活動を進めるうえでの問題点の解決策を共に考える場として企画し、各クラブの次年度クラブ研修リーダー約80名が参加し、開催しました。まず最初に、クラブ研修リーダーの心構えについての話を致し、続いてセッションⅠとして五味研修委員より、過去の地区研修委員会での検討結果を集約し、「クラブ研修活動のあり方と問題点」というタイトルで、クラブにおける研修活動の位置づけ、進め方と仕組み、新入会員、中堅会員、ベテラン会員向け研修の内容等に関するプレゼンテーションを行いました。これを受け、セッションⅡとして「より効果的なクラブ研修活動をめざして」と題するフォーラムを行い、私の司会でセッションⅠのプレゼンテーションについての質問や意見に基づき、活発な意見交換を行いました。特に、各クラブにおける研修リーダーと研修委員会の必要性と役割についての認識が各クラブに十分浸透していないとの指摘もあり、今後取り組むべき幾つかの課題も明らかになりました。